浅井委員提出資料

生涯学習振興関係の指標について－指標の種類と枠組みについてのメモー

平成 24 年 2 月 13 日　浅井経子

ここでは計画と評価との関係等について述べるのではなく、生涯学習振興関係の指標設定に関する一つの考え方を述べることにしたいと思う。

生涯学習振興関係の指標として下記の３種類のものが考えられるのではないか。

1　アウトカムを数値化し、指標とする。

指標作成の枠組みとして、次のようなものが考えられる（図 1、図 2)。

指標にするには事前と事後の変化をとらえればよい。

直接的効果または中間的アウトカムを指標にし、データを収集してはどうか。可能であれば最終アウトカムもわかればよいと思う。

事業等 → アウトプット → 直接的効果 → 中間的アウトカム → 最終アウトカム

知識･技術が身についた
考え方が変わった

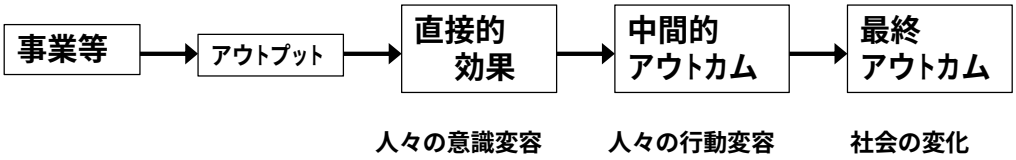
学習成果を活用した

社会が変わった
(社会的な課題の解決)

アウトカムの領域	意識の変容 行動様式の変容 (例)	生活等の中での活用 (例)	社会の変化 (例)
自己の充実	人生観の変化	生きがいをもって生活している。健康に生活している。	生活満足度アップ 社会の安定
日常生活･家庭生活の向上			
職業上の能力の向上	職業観の変化 職業技術の獲得	就転職活動をした 職場で活用した	社会の経済力がアップ 新たな産業の創出
地域参画	地域参画への意欲の増大	ボランティア活動をした	地域社会の活性化 ボランティア活動率のアップ
・ ・			

図1　学習機会の提供や整備に関わるアウトカムの枠組みと例

アウトカムの種類については、国立政策研究所社会教育実践研究センター『社会教育計画策定ハンドブック(計画と評価の実際』(2012年3月刊行予定)を参照



アウトカムの領域	意識の変容（例）	行動変容（例）	社会の変化（例）
生涯にわたる学習機会（生涯各期の学習機会）の整備	生活課題に応じた学習機会を見つけることができ、学習意欲が増大	学習率のアップ 講座等受講者数の増加 学習希望と学習実態の差の縮小	社会的な課題の解決 社会の活性化 社会の経済力アップ 生活への満足アップ
あらゆる機会・あらゆる場所で学習できるように整備（ICT活用等を含む）	学習機会を見つけることができ、学習意欲が増大	学習率のアップ 学習の阻害要因が減少	社会的な課題の解決 社会の活性化 社会の経済力アップ 生活への満足アップ
学習成果を適切に生かすことができるようにする	学習成果の活用への意欲増大 資格等の社会的評価が得られた	学習成果を活用した就職できた 収入がアップした ボランティア活動をした	社会的な課題の解決 社会の活性化 社会の経済力アップ 生活への満足アップ

図2　生涯学習社会構築に関わる アウトカムの枠組みと例

【参考：アウトプットとアウトカムについて】

事業評価でいうアウトプットとは、事業の実施によって直接的に生じる結果のことをいう。すなわち、学級・講座等であればその実施の直接的な結果である実施された学級・講座数や実施コマ数、あるいは参加者数などである。学習施設の利用事業（施設提供事業）であれば開館日数や利用者数などが一般的に用いられている。

それに対して事業のアウトカムとは、事業の実施を通じての参加者や利用者の意識およびその後の行動等の変容、さらには地域住民や地域社会への影響など、アウトプットを通じて生じる変化のことで、通常、成果と呼ばれる。例えば、家庭教育に関する講座の実施後、その受講者が家庭で子どもと会話をする時間が増えた、というのは家庭教育講座のアウトカムとなる。なお、アウトカムには事業の実施や終了後、短期間で成果が得られるものと、反対に成果が得られるまでに長時間かかるものもある。さらに、アウトカムは最終的に到達する目標状態を最終アウトカムとして位置付けて、最終アウトカムが得られるまでの途中の段階で予想される変化や影響を中間アウトカムとして設定することもある。アウトカム評価には、このようなアウトカムの評価を含めて考えることができる。

原義彦「事業評価の手法」日本生涯教育学会『生涯学習研究ｅ事典』より

http://ejiten.javea.or.jp/content.php?c=TkRneE5qYzA%3D

2　数値化が難しい場合は期間目標を指標とする（○年までに・・・を達成、とする。）

例）・平成○年までに ISO による非公式教育・訓練サービスの質保証のための評価・情報公開システムの構築を達成。

・平成○年までに生涯学習推進センターに電子黒板の整備を達成。

3　アウトプットを数値化し指標とする

直接学習者に影響を与えるものではない条件整備、財源確保を必要としない条件整備については、アウトプットを数値化し指標とすることも考えられる。アウトプットと最終アウトカム等の関係を検証するなどして説明できるようにしておくと、いざという場合によいと思う(図３)。

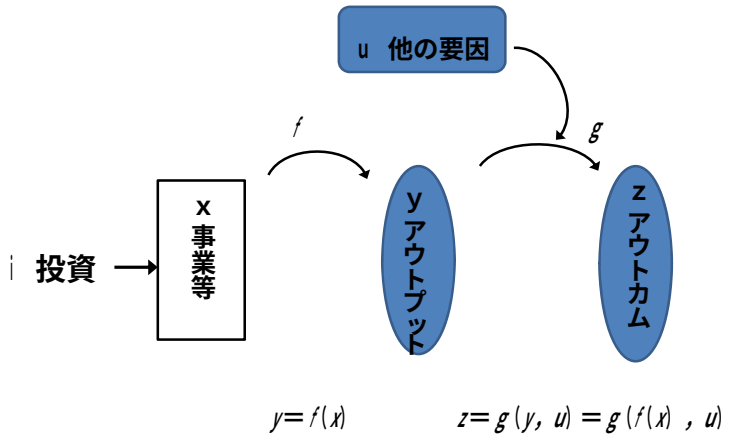


図3　事業等、アウトプット、アウトカムの関係

z アウトカムはuの影響が大きく、yで捉えるのが難しい場合

【参考】

表　基本計画における指標（例）

指標の類型	基本計画の名称等	特徴と例
政策レベルで数値目標	スポーツ振興基本計画 H18改正　文科省	大きな柱の政策目標に（可能な限りの）数値目標を設定し、関係施策をあげている。 ・成人の週1回以上のスポーツ実施率が2人に1人（50パーセント）となることを目指す。
項目ごとに数値目標	食育推進基本計画 (第2次)　H23　内閣府	11の項目ごとに数値目標を設定し、関係施策をあげている。 ・食育に関心持つ国民　H17　70%　→ 27年度までに90%
多様な数値目標	観光立国推進基本計画 H19　国交省、観光庁 男女共同参画基本計画 (第3次)　H22　内閣府	基本目標を設定するとともに、柱別に多様な数値目標を設定、関係施策をあげている。 ・わが国における国際会議開催件数を平成23年までに5割アップ。 成果目標をたくさん設定し、関係する具体的な施策をあげている。 ・「男女共同参画社会」の周知度 H21年現在　64.6%　→　H27年　100%
記述による目標が中心	科学技術基本計画 (第4次)　H23　文科省	目標は記述により提示されているが、数値目標をあげているところもある。 ・自然科学系の女性研究者の採用割合を30%まで高める。
記述による目標(施策と一体)	防災基本計画 H23　修正　内閣府	取り組まなければならない事項について記述している。 ・～図るものとする。　・～努めるものとする。　・～推進するものとする。
期間目標	消費者基本計画 H22　消費者庁	取組むべきことの担当省庁、実施時期を明示している。 ・消費者庁　消費者教育効果の測定手法や先進的教育手法等の検討を平成22年度から検討をはじめる。